

事例番号:290237

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 29 週 5 日 - 前期破水のため当該分娩機関に母体搬送され管理入院

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 32 週 3 日

4:00 陣痛発来

9:34 胎児心拍数陣痛図で高度変動一過性徐脈や遷延一過性徐脈の出現

9:42 経膈分娩

胎盤付属物所見 胎盤病理組織学検査で高度の絨毛膜羊膜炎、臍帯炎を認める

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:32 週 3 日

(2) 出生時体重:1811g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.273、PCO<sub>2</sub> 48.1mmHg、PO<sub>2</sub> 15.8mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 21.7mmol/L、BE -5.4mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 4 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 早産、低出生体重児、呼吸窮迫症候群

生後 2 日 PDA 閉鎖傾向なし、症候化している、インドメタシナトリウム静注用を投与

(7) 頭部画像所見:

生後 42 日 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症を認める

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、小児科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 1 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠中から分娩経過中に生じた脳の虚血(血流量の減少)により、児の未熟性を背景として脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことである。

(2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは困難だが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性がある。

(3) 子宮内感染が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

(4) 新生児期の PDA(動脈管開存)も PVL の背景因子となった可能性がある。

**3. 臨床経過に関する医学的評価**

**1) 妊娠経過**

(1) 紹介元分娩機関において、妊娠 29 週 5 日破水感で受診した際の妊産婦の発言より、妊娠 28 週 5 日の妊婦健診時に尿漏れ感の訴えに対して、診察を行わなかったとすれば、一般的ではない対応である。

(2) 紹介元分娩機関で妊娠 29 週 5 日に前期破水を認め、高次医療機関である当該分娩機関へ母体搬送したことは一般的である。

(3) 紹介元分娩機関および当該分娩機関において、ベクタグソリン酸エステルナトリウム注射液を投与したことは医学的妥当性がある。

(4) 当該分娩機関において、妊娠 29 週 5 日の前期破水に対し、ベクタグソリン酸エステルナトリウム注射液投与後に分娩とせず子宮収縮抑制薬を継続投与し妊娠継続

としたことは、選択肢のひとつである。

- (5) 当該分娩機関における妊娠 29 週 5 日以降の前期破水・切迫早産の管理(抗菌薬の投与、子宮収縮抑制薬の投与、連日のノンストレス実施、超音波断層法の実施)は一般的である。

## 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 32 週 3 日、陣痛発来および内診所見(子宮口開大 2cm、展退 80%、児頭的位置 Sp-2cm)より、リトリン塩酸塩注射液点滴を中止し、ダブルレットアップ<sup>®</sup>で経膈分娩を施行したことは医学的妥当性がある。
- (2) 早産の経膈分娩に対して、小児科医の立ち会いのもとで分娩としたことは適確である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。
- (2) 当該分娩機関 NICU 入室後の管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 紹介元分娩機関

- ア. 妊婦健診中に破水感の訴えがある場合は、適切な診察を行うことが望まれる。
- イ. ベクタゾリン酸エステルナトリウム注射液の投与量は、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」に則して投与されることが望まれる。

【解説】本事例では、ベクタゾリン酸エステルナトリウム注射液の投与量が 8mg であった。「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、ベクタゾリンの投与は、12mg を 24 時間ごと、計 2 回、筋肉内投与することが推奨されている。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

## 2) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

### (1) 紹介元分娩機関

助産師外来受診時であっても、医師の診察が必要な場合には、医師への連絡とスムーズな対応ができるよう連携することが望まれる。

### (2) 当該分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

## 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

### (1) 学会・職能団体に対して

早産の脳室周囲白質軟化症(PVL)の発生機序、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

### (2) 国・地方自治体に対して

なし。